



私の援助を振り返る



～「ジリツ」を支えるとはどういうことだろう～

私たちの日々の現場では、業務に追われ、時間に追われ、問題解決に追われ、色々な意見の板挟みになり、否応なく時間的な余裕、そして、心の余裕を失ってしまうこともあります。

「私はどうしたらいいのだろう…」 「私は何がしたいのだろうか…」 「私は誰の援助をしているのだろう…」 「そもそも、援助って何だろう…」 など、、、

声にできない、言葉にならない戸惑いや葛藤、悩み、苦しみを抱えてしまうこともあるのではないのでしょうか？その際、大切なことは対人援助専門職である私たちが現場で抱えるモヤモヤや苦悩を仲間と語り合い、分かち合い、考え合い、支え合いながら共に成長していくことだと思います。

そこで、昨年に引き続いて今年も研修会を4回開催いたします。日程は下記の通りです。

今現場で奮闘している皆さまの明日の実践が少しでもよいものに、明日への活力となることを願います。

ぜひ、一緒に語り合い、考え合い、学びを深めましょう。昨年の研修の報告を裏面に載せています。

どんな研修内容だったのかお読みいただき、参加をご検討ください。

講師

坂井 明弘 氏 (株) CARE & SONS 代表取締役 / 鹿児島県社会福祉士会会員

内容

ワークショップ

事例をもとにグループ討議や全体共有、講師からのフィードバック・レクチャーを織り交ぜながら、対話的に学びを深めていくスタイルとします。

参加費

20歳代の社会福祉士は会員・会員以外とも無料！！

会員：1,000円 会員以外：2,000円



※参加費は当日受付時にお預かりします。

<https://x.gd/iIZmB>

<p>第3回 南薩会場 【南薩地区 支部共催】</p>	<p>日程：2026年 1月10日（土） 13時30分～16時50分 (受付開始13時15分)</p> <p>会場：南さつま総合保健福祉センター ふれあいかせだ 1階会議室 (南さつま市加世田川畑 2 6 4 1 - 2)</p> <p>申込方法：QRコード、URL、又は下記FAX送信票にてお申込みください。</p> <p>締切：2026年 1月5日（月）</p>
---	---

<FAX送信票> 送信先：099-213-4051

申込者氏名	会員 会員以外 20歳代 (いずれかに○してください)
所属先・職種	
連絡先 電話	(自宅・職場・携帯)
メールアドレス	

「支持的スーパービジョン研修により援助者を支援する」 ～社会福祉士同士が支え合うネットワーク構築による組織率の向上を目指して～実施報告 (2024年度日本社会福祉士会助成金事業)

【研修の目的】

今回の研修では、講師と事例提供者の間で支持的スーパービジョンを土台としたスーパービジョンを実施することにより、参加者も自分自身が現場で抱える気懸かりや困難、葛藤、悩みについて振り返ることができる。さらに、参加者も支持的スーパービジョンを疑似的に体験し、現場で自分自身が抱える気懸かりや困難、葛藤、悩みを仲間と語り合い、考え合い、学び合い、気づきや活力を得られるような機会を提供する。そのことを通して会員を支え、専門職としての成長を促せるようにする。会員に参加してもらうことにより、社会福祉士会での活動の意味を再認識してもらい、会の活動を継続し、自己研鑽、会員同士のネットワークの構築を深めることにつなげてもらうことを目的として、地区支部と協力して実施しました。各回、事例をもとにテーマを設定して事例提供者と参加者が自分の現場と重ね合わせながら研修を進めました。

- | | |
|-----------|--|
| 第1回：北薩会場 | テーマ：支援における個別化とは？ |
| 第2回：徳之島会場 | テーマ：生活全般の支障が評価されないまま育ったAさん |
| 第3回：始良会場 | テーマ：若くして要介護となった方が、今後主体的に生活できるように支援するにあたって、援助者の心構えや関わり方について |
| 第4回：オンライン | テーマ：研修で得た気づきを実践しての振り返り |

昨年の
感想です

2024年度初任者研修を振り返って

鹿児島県社会福祉士会事務局 鹿児島県地域生活定着支援センター
ソーシャルワーカー 徳田英幸

昨年度の初任者研修「支援困難ケースにまつわるモヤモヤを解きほぐす～援助者のケアとエンパワメント、そして援助的ネットワークの形成をめざして～」を開催しての感想を書かせていただきます。

まず、研修の準備と当日の運営にご協力いただいた地区支部の会員さん、講師の坂井さん、事例提供者の皆さん、参加者の皆さんに心から感謝申し上げます。

さて、昨年度は出水会場、徳之島会場、霧島会場での現地開催とZ o o mでのオンライン開催で計4回開催しました。研修全体を振り返り、いま思うことは、とても楽しく充実した時間であり、居心地のよい場だったということです。いずれの回も、日頃の援助実践で抱えるモヤモヤや悩みを題材に、援助やその実践について、皆さんと語り合い、考え合い、学び合う、対話型の研修でした。参加者は、会員さんだけでなく、非会員の方々も多く参加してくださいました。職域や職種はそれぞれ異なりますが、講師の坂井さんの対話的で援助的なファシリテートにより、現場の違いを超えて、「援助とは何か？」「私は何する者か？」「私は何がしたいのか？」など、自らの日々の実践や在り様を振り返り、見つめ直し、人を援助することの意味をともに探求する機会となりました。そして、語り合い、考え合い、学び合うことを通じて、参加者の皆さんとつながることができ、新たなネットワークが形成されたのではないかと感じます。

今年度も本研修を継続して開催することが決まりました。開催場所やテーマ、内容など具体的なことはこれから検討していきませんが、めざすことは本研修が現場で奮闘する皆さんの「語れる場」「聴いてもらえる場」「一緒に考えてもらえる場」「元氣になれる場」「成長のヒントを得られる場」となれたらと考えています。会員の方、非会員の方も参加OKです。日々の現場で答えがでない問いやモヤモヤをお持ちの方、自らの実践を振り返り自己点検したい方、ぜひご参加ください。また、身近にモヤモヤや悩みを抱えていそうな気懸かりな方（同僚、友人、知人など）がいれば、お誘いあわせのうえご参加いただければ幸いです。

皆さんとお会いし、一緒に学びを深められることを楽しみにしております。

【参加者の声】



研修では、事例を通して援助とは何かをみんなで問い、考え、うまく言葉にできないもの、そのものとして聴いてもらえる、受け取ってもらえる場所でした。他の参加者の話も聴いて、語り合って、その中で対人援助論という視点からモヤモヤが解かれ、「また明日からの実践を頑張ってみよう」と思えました。

- ・自分がどこまで利用者と関係が作れているのか、利用者選ばれているのか、振り返る時間となりました。
- ・利用者1名が頭に浮かびました。「本人が苦しんでいる」と思っていなかった。貴重な研修の場でした。
- ・みんなの意見を聴いて、自分の考えを話すことができてよかった。



問合せ先：公益社団法人鹿児島県社会福祉士会事務局

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町1番7号6階

TEL:099-213-4055 FAX:099-213-4051 MAIL: jacsw@po.minc.ne.jp